

研究室彙報

佛教學研究室

佛教史學會

△五月二十四日(日曜日)

新入生歡迎會を兼ねて西山三鈔寺、善峯寺、及び粟生光明寺方面へ見學旅行を行ふ。

午前八時三十分

新京阪停留所集合、九時出發。

參會者

大屋、日下兩教授以下

新入生、倉橋龍溫、城戸融正、大橋誠宏及び三回

生、間谷、二回生、大野、黒田、片岡の諸君。

午後五時三十分京都驛歸着解散

見學旅行略録

一、西山三鈔寺

寺寶中の主なる物左の如し。

西山善惠國師御眞筆

研究室彙報

一枚起請文謹寫

觀門義草書

享德年中塔頭領分知行目錄

觀念三昧院藏

論旨

常念佛再興 天正三年十二月三日左中將

當山掃除

十月三日右中辨

仁空上人御記

二、善峯寺

三鈔寺より徒歩で善峯寺に到る。當寺は山門派に屬し、源算、慈鎮、覺快、覺道、尊内、尊道、王法親王、こゝに住せられた、又當寺には天然紀念物として有名な遊龍松が寺域内を莊嚴にしてゐる。

三、粟生光明寺

善峯寺より約一時間半にて光明寺に到り、晝食を取り終つて、御影堂に圓光大師の尊像を禮し、更に浮華臺なる御本廟に詣で、納骨堂に御尊靈を拜し、大師の徳化の偉大なるを想ひ、渴仰の念を一層深からしめた。

大谷學報 第十七卷 第三號

寺寶中の主なる物左の如し。

大師御自作張御影座像

御眞筆一枚起請文

淨土門根元地繪旨

四十九體化佛阿彌陀佛畫像

絹本着色 惠心筆 (國寶)

二河白道圖

絹本着色 惠心筆 (國寶)

龜山天皇御贊大師自畫像

正親町天皇御宸翰光明寺 一軸

後白河法皇御宸翰紺紙金泥彌陀經 一卷

後陽成天皇御宸翰の歌 一軸

黃檗山隱元禪師詩並書 一軸

禁中常御殿御澳の内

春日野行幸

狩野探信筆

大井川逍遙船

狩野永信筆

御屏風源氏繪

土佐常覺入道筆

御屏風耕作圖

山本求馬筆

西山流條目

一通等

以上

大乘佛教學會

新入生歡迎會並びに例會

時 六月四日午後三時

場所 會議室

講師 小島惠見教授

講題 「支那現代の唯識教學」

出席者 松原、小島、茜部、西本、龍山の諸教授、學生數十名

研究發表を終りて、歡迎會に入る。和やかなる氣分に始終して、諸教授より佛教學研究の方法につき種々懇切なる注意ありて、午後五時閉會。

例會

時 六月二十四日午後三時

場所 會議室

講師 山口光圓教授

講題 「天台に於ける論題の研究」

出席者 本多、小島、松原、山口光、西本、日野泰の諸教授並びに學生十餘名。

印度佛教學會

△第一回例會

時 六月二十六日午後

場所 第三教室

講師 舟橋一哉氏

講題 南傳阿毘達磨の教義について——木村泰賢氏

著「小乘佛敎思想論」を評す——

出席者 松本、小島、山口、林、西本、龍山の諸敎
授並びに學生十餘名。

國史學 國文學 研究室

國史研究會

◎知恩院見學「見學の栞」配布

日時 五月二十九日午後零時五十分

場所 知恩院

出席者 德重敎授、藤島、宮田兩先輩以下學生二十
五名。

研究室彙報

井川定慶師より知恩院沿革に就いて講演あり、了つて當院藏寶拜觀。

法然上人繪傳四十八卷中一卷及び冷泉爲恭筆の同寫し一卷

宋版（福州版）大藏經 一卷

繪入阿彌陀經 一卷

大唐三藏玄奘法師表啓 一卷

天平寫經

阿彌陀經與書の後奈良天皇御宸翰

不斷念佛誓狀

東山天皇勅書

元三大師畫像

上宮聖德法王帝説の寫眞版等

續いて方丈障壁畫、方丈庭園を拜觀

○例會

日時 六月九日

會場 第九教室

演題 日本美術史上に於ける作家の問題

講師 京都博物館 鑑査官

土居次義氏

出席者 德重教授、藤島、宮田先輩以下、學生二十名。

○例會 六月十九日 自午後三時

會場 會議室

演題並發表者

一、愚觀抄に現はれたる武家發生觀

三回生 江崎 雪君

一、出羽國名考

先輩 佐々木求己氏

出席者 德重教授、藤島、宮田、木村、蒲原先輩以

下學生多數。

支那學 東洋史 研究室

東洋史學會

△六月二十二日 自午後三時半於十一教室例會開催

講題 〃清初の白身に就いて〃

廣島文理大助教授

京都帝大講師 鷺淵 一先生

寺本、道端、野上諸先生、研究科 福岡氏、學生十數名出席。